



母校教官挨拶

## 御挨拶

——退官に際して——

大熊 信行

このたび願ひに依り退官いたしました。滿十五年の長きにわたり、殆ど半生を高岡高商に奉職いたしましたのでありますが、なんら爲すところもなく今日に至りましたことは、赤面の外ありません。殊に茲兩三年は、學校の勤務のほかに戦時の常として公務に準ずるやうな用務が東京方面に殖え殊に最後の一年ばかりは、ぬきさしならぬ事情で上京の機會が多くなりました結果、學校に御迷惑をかけたことが、一再にとゞまらなものであります。このやうな状態は我ながら氣に入らぬことでありまして、これは何とか處理せねばならぬと考へました結果、いはゞ一つの結論に達したやうな次第でありました。

しかし退官を願ひ出る決心に至りますまでは、別に一身上の都合があつたことを申添へなくてはなりません。一つは老母が今年八十歳の高齡を迎へまして、幸に元氣でゐてくれますが、さういつまでも親子離れ／＼でゐることは

面白くないと考へまして、せめて郷里に母を見舞ふことがいつでも自由にできるやうな状態に、身輕になつてゐるところ／＼した方がよいのではないか、といふやうな考が昨年夏休みに歸省した時分から動いてをつたのであります。

他にもう一つは、これは全く別なことですが、自分の主要著作として計畫を發表してゐる『配分原理』全四巻を、こゝ五箇年ばかりで豫定どほり完成するためには、いまのまゝの生活では覺束ないものがあるやうに感じられる。もつと生活の幅を切りつめ、精神と體力をその仕事に集中する必要がある。それには學校の勤務生活でさへも、かならず有利な條件をなすものとはいへないやうに思はれるのでありまして、できればあらゆる職務といふものから離れていはゞ今いちど受験生になつたつもりで、勉強を試してみたものだといふ考が、次第につのつてまゐつたのであります。——いつたい、今日の世の中では、學校教員をすることと、勉強をすることは、二つにして一つの事と信じられてゐるほどでありまして、學校をやめれば勉強もしなくなるものだといふぐらゐに考へてゐる人さへあるやうでありますが、わたくしは學問と教育とは事實上むしろ別個の

仕事だといふ考をいだいてゐる者であります。

これは今日の學校教育なるものの本體を見つめてのうへの話でありまして、教師は勉強さへすればそれで教育の任務を果せるのだといふ考は、謬りを含んでゐるのではないかと思つてをります。

いづれにせよ、わたくしは自分の勉強心を満足させるためには職を辭すべきであると考へ、職を辭するには生活を切りつめる覺悟さへあればよい、と考へるやうになつたのであります。

以上二つの事情が相寄りまして、最初に申上げた結論をうしろから押しあげることにになり、さらに生活問題の方はどうかにかうにか解決がつかぬこともないといふやうな見透しもつきましましたので、こゝに退官の決意をいたしました次第であります。事柄の性質上、一々私事にわたりまして恐縮ですが、ありのまゝ申上げるのが、こんな場合は却てよいのではないかと存じまして、お打明けいたしました。二三の新聞紙上などには全くこれとは別の『談話』が載つたやうですが、當時わたくしは旅行不在中でしたし『談話』をした覚えもありません。殊に今後評論活動が忙しくなるので、といふやうな記事もあつたと思ひますが、それは大變

事實に反してをるわけであります。

さて、かく決心をいたしまして熊木先生にお願いを申出ましたところ、先生には一方ならぬ御心配をお懸けする結果となり、おゆるしが遂に出ます前後まで、幾月かにわたつて數々過分の御配慮を忝うしたのであります。まことに慚愧に堪へぬことばかりであります。右のやうな次第でありまして、他に轉任といふのでもありませんので、四月以來は講師として相變らず働かせていたゞいてをります。したがつて、わたくしのつもりでは、まだ學校とお別れをいたしたわけではなく、同僚のどなたへも、別に改まつて御挨拶とていたしたのでありません。御鄭寧にお言葉を掛けられてはじめて、何卒不相變などと申上げたことが一二度あつたぐらゐであります。この席でも、お別れを申上げる場合ではまだありませんので、申し落したこともありませうし、一向形も整ひませんが、これをもつて一言御挨拶といたします。

(五月十日金澤支部大會席上挨拶要旨)

御 便 り 依 田 愿

拜啓春暖之候益々御清祥に被爲在奉大賀候さて此度は今回御變更之御規定を態々廻りてまで私に御適用被下復もや過